

---

# 道 徳 教 育

---

## 1 研究のテーマ

### (1) 研究テーマ

「自己肯定感を高める教育」の推進

### (2) 研究のねらい

本研究は、教科の授業において、生徒の「自己肯定感を高める教育」の実践を行うことによって今後の道徳教育の参考とすることを目的とする。

### (3) 背景

令和4年度高等学校教育課程研究会の道徳教育部門では、特別活動のホームルーム活動における授業実践として自殺予防教育に着目し、「SOSの出し方に関する教育」の推進をテーマに研究を進めた。令和5年度は自殺予防教育の根幹となる、生徒の「自己肯定感を高める」について考察した。改めて自己肯定感について調査すると、こども家庭庁(2023)では、子供・若者の意識として、自己肯定感に関する項目として、「今の自分が好きだ」は2022年で60.0%、自己有用感に関する項目として、「自分は役に立たないと強く感じる」は31.1%であった。低い水準というわけではないが、まだまだ多くの生徒の自己肯定感が高まっていない現状をうかがわせる。

そもそも、自己肯定感とはどのようなもので、どのように高めることができるのだろうか。宮下(1999 pp.810-811)によると、アメリカの心理学者マズローの唱えた人間の欲求は、低次の方から、①生理的欲求、②安全の欲求、③社会的欲求、④自我欲求、⑤自己実現欲求の5段階からなり、低次の欲求から順に高次の欲求の充足に向かって段階的に進んでいくという。これを「欲求階層説」という。宮下(1999 p868)では、「自己実現」とは自己成長や創作活動と関連した最も人間らしい欲求であるという。生徒が「自己実現」を目指すためには、低次欲求である「自我欲求」を満たす必要がある。宮下(1999 p331)では、「自己実現」している人の特徴として、自尊感情が高まっているため、行動や思考に際して自己の基準に従って行動し、他者に寛大だという。宮下(1999 p331)の記述にもある通り、「自尊感情」とは、一般的に「self-esteem」の訳語であり「自我欲求」ともいう。国立教育政策研究所(2015)にも同様の指摘があり、「自己肯定感」と同義であることが分かる。したがって、他人に対して受容的な人は自己肯定感が高いということである。

また、『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説総則編』には、道徳教育の目標について「道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、生徒が自己探求と自己実現に努め国家・社会の一員としての自覚に基づき行為しうる発達の段階にあることを考慮し、人間としての在り方生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする」(文部科学省 2018)と示されている。他者と共によりよく生きるためには、他者に対して寛大になり、他者の言動を受入れることもあるだろう。直接的に自己肯定感について言及されているわけではないが、やはり自己肯定感が関連している。

この自尊感情(自己肯定感)を高める方法について、『評価・診断 心理学辞典』(1989)によると、自己に対する有能感や信頼感の獲得体験や、他者によって積極的に尊重されるといった経験を通して発達するという。したがって、自身のしたことを受け入れてもらうことが重要なのである。

以上のことから、令和5年度は自己の活動が承認されれば、その結果自己肯定感を高めることができるのではないかという仮説を立て、授業実践を行なうこととした。

次に、授業では具体的にどのような実践ができるか検討するために、対象となった県立大和高等学校の「道徳教育の全体計画」を確認した。

「道徳教育の重点目標」では、「自己を見つめ主体的、創造的に生きる力を養うとともに、他者の生命や個性を尊重する精神を身につける。」とあり、「個性の尊重」を学校として求めている(図1)。また、教科「理科」の目標には、「自然の事物・現象を探究する活動を通して、自然と人間のかかわりについて認識を深めさせ、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。」とあるので、マズローの欲求階層説を踏まえて考え、「自己肯定感」を向上させたいので、「個性が尊重」される活動を行うと同時に、「遺伝子とその働き」という単元を通して「生命を尊重」することにつ

いて考える授業実践を行った。

道徳教育の重点目標	
◎人間尊重の精神をもち、自己の実現を図りながら社会の未来を拓く主体性のある人間を育成する。 ・自己を見つめ主体的、創造的に生きる力を養うとともに、他者の生命や個性を尊重する精神を身につける。 ・公共の精神を尊び、民主的な社会・国家の発展に努める態度をはぐくむ。 ・伝統や文化を重んじる心を育成するとともに、他国を尊重し、国際平和や環境保全に寄与する態度をはぐくむ。 ・自律の精神および社会連帯の精神を養う。	理科 ・自然の事物・現象を探究する活動を通して、自然と人間のかかわりについて認識を深めさせ、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。 ・科学的に探究する能力を育て、科学的な自然観を育成し、道徳的判断力や真理を大切にしようとする態度を養う。

図1 「令和5年度 道徳教育の全体計画」の「道徳教育の重点目標」及び「理科」の目標

なお、今回の実践では主に「自己肯定感」の高まりについて扱い、内容・題材については言及してこなかったが、『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説特別の教科 道徳編』『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説特別の教科 道徳編』では「道徳教育の目標を達成するために指導すべき内容項目」として次の四つの視点が明記されている。すなわち、「A 主として自分自身に関すること」「B 主として人との関わりに関すること」「C 主として集団や社会との関わりに関すること」「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」(ともに文部科学省 2017)である。本単元では「遺伝子とその働き」を通して、「生命を尊重」することについて考えているため、題材の面でも「D」に関連すると考えた。

今回の授業実践では、「自己肯定感を高める」ための手立てとして、ジグソー法を採用した。ジグソー法は自身の説明や考えを他者に聴いてもらう機会、他者から承認を受ける機会のある活動であることから自己肯定感を高めることができると考えられる。「教育家庭新聞(2015)」にも、高等学校の国語の授業においてジグソー法によって自己有用感が高まることにつながると指摘する実践例がある。今回の実践でも、生徒が自身の説明や考えを他者に聴いてもらい、他者からの「承認」を得て、ジグソー活動において自身の役割を果たすことで「自己肯定感」が育まれることを目的に実践を試みた。

## 2 実践事例

### (1) 単元指導計画

- ア 科目名：生物基礎
- イ 単元名：遺伝子とその働き
- ウ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
遺伝子とその働きについて、遺伝情報とDNA、遺伝情報とタンパク質の合成の基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	遺伝子とその働きについて、観察、実験などを通して探究し、遺伝子とその働きの特徴を見いだし表現している。	遺伝子とその働きに主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

### エ 単元の指導と評価の計画 ○「記録に残す評価」 ●「指導に生かす評価」

次	時	学習活動	知	思	態	評価のポイント・指導上のポイント
1	1	・DNAの構造や性質を、研究史を展開しながら理解する。	●			<b>【指導上のポイント】</b> DNAが二重らせん構造であること、そのため、2本鎖の塩基配列は相補的であることを理解できるようにする。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>• DNAの構造を理解しているか口頭で表現する。</li> <li>• 振り返りを行う。</li> </ul>		●	<p>【指導上のポイント】 資料に基づき、DNAの構造の特徴に気付くよう、授業を展開する。</p> <p>● 【評価のポイント】 学習中に分からなかったことや新たに疑問に思ったことをどのように解決しようとしたかを表現している。</p>
2 ～ 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>• DNA、遺伝子、ゲノムの関係性を理解する。</li> <li>• 振り返りを行う。</li> </ul>	○		<p>ワークシート</p> <p>【評価のポイント】ゲノム、遺伝子、染色体、DNAの関係を理解できているかワークシートの記述から評価する。</p> <p>● 【評価のポイント】 学習中に分からなかったことや新たに疑問に思ったことをどのように解決しようとしたかを表現している。</p>
4 ～ 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>• DNAが体細胞分裂の際に、複製され質・量ともに均等に分配されることにより遺伝情報が伝えられることを理解する。</li> <li>• DNAの複製を塩基配列と関連付けて説明する。</li> <li>• 振り返りを行う。</li> </ul>	●	●	<p>【指導上のポイント】 体細胞分裂が行われる際に、遺伝情報の同一性が保たれることを理解できるようにする。</p> <p>○ ワークシート 【評価のポイント】DNAの複製を塩基配列と関連付けて説明することができるかワークシートの記述から評価する。</p> <p>振り返りシート 【評価のポイント】 学習中に分からなかったことや新たに疑問に思ったことをどのように解決しようとしたかを表現している。</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>• DNAの複製・分配は細胞周期にあわせて行われることを理解する。</li> <li>• 細胞分裂の実験を行い、実験結果を通して細胞周期について理解する。</li> <li>• 振り返りを行う。</li> </ul>	●	○	<p>【指導上のポイント】 DNAの複製・分配と細胞周期の関係を理解できるよう工夫して授業を行う。</p> <p>ワークシート 【評価のポイント】試料の採取、染色などを行い、光学顕微鏡で観察する技能を習得しているかワークシートの記述から評価する。</p> <p>● 【評価のポイント】 学習中に分からなかったこと</p>

						や新たに疑問に思ったことをどのように解決しようとしたかを表現している。	
2	7 ～ 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な生命現象にはタンパク質が関わっていることに触れ、それらタンパク質がDNAの遺伝情報に基づいて合成されることを理解する。</li> <li>DNAからタンパク質が合成される際には、転写・翻訳が行われることを表現する。</li> </ul>	●		●	○	<p>【指導上のポイント】DNAの塩基配列に基づいて、タンパク質が合成されることを理解できるよう留意する。</p> <p>【指導上のポイント】DNAの複製を塩基配列と関連付けて考えることができるように留意する。</p> <p>ワークシート</p> <p>【評価のポイント】DNAの遺伝情報に基づいてタンパク質が合成される過程を体系的に考察し、表現していることをワークシートから評価する。</p>
	9 ～ 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての遺伝子が細胞内で常に発現しているわけではないことを理解する。</li> <li>振り返りのまとめを行う。</li> </ul>	●			○	<p>【指導上のポイント】遺伝子の発現について理解し、細胞ごとに特定の遺伝子が発現することを理解できるよう留意する。</p> <p>振り返りシート</p> <p>【評価のポイント】遺伝子の発現とこれまでに学習したDNAと関連付けて探究しているか、ワークシートの記述から評価する。</p>
		○ペーパーテスト(定期考査)	○		○		

#### オ 授業実践例 (2時間目/10時間)

##### 本時の流れ(65分)

時間	学習活動(指導上の留意点を含む)	評価の観点(評価方法)
5分	○導入 <ul style="list-style-type: none"> <li>スライドを見て、本時の活動と目標を理解する。</li> <li>【目標】ゲノム編集についての理解を深め、その関わり方を考える。</li> <li>ワークシートと資料に目を通す。</li> <li>3～4人×13班をつくる。トランプの♠♥♦に分かれる。</li> </ul>	
18分	○展開①(Quest) <ul style="list-style-type: none"> <li>班で協力してクリアできる課題に取り組むことで成功体験を積む。</li> <li>【課題】ゲノム編集とはどのような技術か?</li> <li>資料1を読み、班で協力してワークシートの穴埋めをする(図2)。</li> <li>クイズアプリ(Quizizz)を使い、課題の内容に関する問題を解き、クラス全員で競い合う。</li> <li>ワークシートについての解説を聴く。</li> </ul>	○ワークシート →知識・技能 【評価のポイント】ゲノム、遺伝子、染色体、DNAの関係を理解できているかワークシートの記述から評価する。

テーマ：ゲノム編集

Quest:ゲノム編集とは？

ゲノム変更の種類
・遺伝子を <u>破壊</u> するもの(ノックアウト) ・遺伝子を <u>導入</u> するもの(ノックイン)
遺伝子組換えの特徴
(制限酵素) ・遺伝子変更の種類としてはノック <u>イン</u> のみを指す。 <u>はさみ</u> と <u>ベクター</u> が必要。
ゲノム編集の特徴
① 現在,注目されるゲノム編集は <u>CRISPR-Cas9</u> (はさみ)を利用する技術である。
② ①は <u>ガイド</u> RNA(20塩基認識)を用いることで <u>狙った(特定の)</u> 塩基配列だけを改変できる。 →遺伝子組換えに用いられる制限酵素(6塩基認識)に比べ,約2の <u>28</u> 乗倍も特異的に指定できる。
③ ゲノム編集は細胞にもともと備わっている <u>DNA修復(機構)</u> のミスを利用して遺伝子を破壊する。
④ 遺伝子組換えと同じようにノック <u>イン</u> することもできる。

図2 資料1 (下線は解答)

37分

○展開②(Question)

・ジグソー法による活動を行う。

【問い】ゲノム編集とどのように関わっていくのがよいのだろうか？

- a トランプのマークごとに3人グループをつくり、活動内容を確認する。
  - b トランプのマークごとにQuest攻略を用いて資料2を作成し、エキスパート活動をする(図3)。
  - ♠：ゲノム編集食品 (4グループ)
  - ♥：遺伝子治療 (4グループ)
  - ◆：デザイナーベビー (4グループ)
- グループごとに、ワークシートの問いに解答すると同時に、各テーマの「メリット」・「デメリット」を記載する。

●グループ活動

【評価のポイント】  
内容に関連して話し合いを進めているか  
話し合いの様子から評価する。

Question:ゲノム編集とどのように関わっていくのがよいのだろうか？

<p>①エキスパート活動の共有:(♠ ♥ ◆)←自分の担当に○ トランプの数字は( )</p> <p>♠ゲノム編集食品は,現在, _____ に限られており,食品表示の義務は _____</p> <p>メリット _____ デメリット _____</p> <p>♥遺伝子治療は, _____ 細胞に対する治療で,病気により _____ と _____ を使い分ける</p> <p>メリット _____ デメリット _____</p> <p>◆デザイナーベビーは, _____ に対してゲノム変更を行うもので, _____ の細胞が改変されたゲノムをもつ</p> <p>メリット _____ デメリット _____</p>	<p>②自分が許容できそうなものは? それぞれの( )に○・△・×のいずれかをつけよう(△は部分的に許容可のもの)</p> <p>♠ゲノム編集食品( ) ♥遺伝子治療( ) ◆デザイナーベビー( )</p> <p>そのように考えた理由を以下に記そう</p> <p>♠ _____</p> <p>_____</p> <p>♥ _____</p> <p>_____</p> <p>◆ _____</p> <p>_____</p> <p>③他者の意見を聞いて,再度,自分が許容できそうなものはどうなったか? それぞれの( )に○・△・×のいずれかをつけよう</p> <p>・ゲノム編集食品( ) ・遺伝子治療( ) ・デザイナーベビー( )</p> <p>上と変化があればその理由を,変化がなければ他者の意見で印象に残ったものを書き出そう</p> <p>_____</p> <p>_____</p>
--	--

図3 資料2

c ジグソー活動

・各自が自身の担当資料についての説明を行う。

※説明時のルール

- 何を言ってもいい。
- 人の言うことに対して否定的な態度をとらない。
- お互いに問いかけるようにする。
- 話がまとまらなくてもいい。
- 意見が変わってもいい。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 自分がテーマにおいて「許容できること」を記入する。</li> <li>- グループ内でそれぞれの許容できることについて話す。</li> </ul> <p>※正解のないオープンクエスチョンであるので、自由に意見を言い合える雰囲気の中で意見交換ができるとよい。</p> <p>d 他者の意見を聴いて自身の考えが変わったことなどを記入する。</p>	
5分	<p>○まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標を確認し、授業内容を振り返る。</li> <li>・ Google フォームに本日の振り返りを入力する。</li> </ul>	<p>●Google フォーム →主体的に学習に取り組む態度</p> <p>【評価のポイント】 ゲノムや遺伝子について、自身の考えを表現しているか Google フォームの記述から評価する。</p>

研究実施校：神奈川県立大和高等学校(全日制)  
実施日：令和5年10月13日(金)  
授業担当者：田部 慧 教諭

#### カ 授業実践後の振り返り

授業において生徒の自己肯定感の高まりが見られることを検証するために、研究授業を実施した1年3組39名の生徒に対して、Google フォームを用いてアンケートをとった(図4)。回答率は100%であった。質問内容は以下のとおりである。

- ① ゲノム編集についての理解が深まりましたか。
  - ② ゲノム編集との関わり方について考えを深めることができましたか。
  - ③ クエスト攻略ではチームで協力したり、クイズに挑戦したりすることで達成感を感じることができましたか。
  - ④ エキスパート活動(♠♥♦で行う)を班で共有するために、責任をもってエキスパート活動に取り組むことができましたか。
  - ⑤ グループ活動では、自身の説明や考えをしっかりと聴いてもらうことができましたか。
  - ⑥ グループ活動では、他者の考えを聴いて、様々な考えがあってもよいと感じることができましたか。
  - ⑦ 本日の感想を入力してください。(自由記述)
- ①～⑥については、5段階で入力できるようにした。1が「わるい」、2が「ややわるい」、3が「ふつう」、4が「ややよい」、5が「よい」である。結果のグラフが下の図4である。

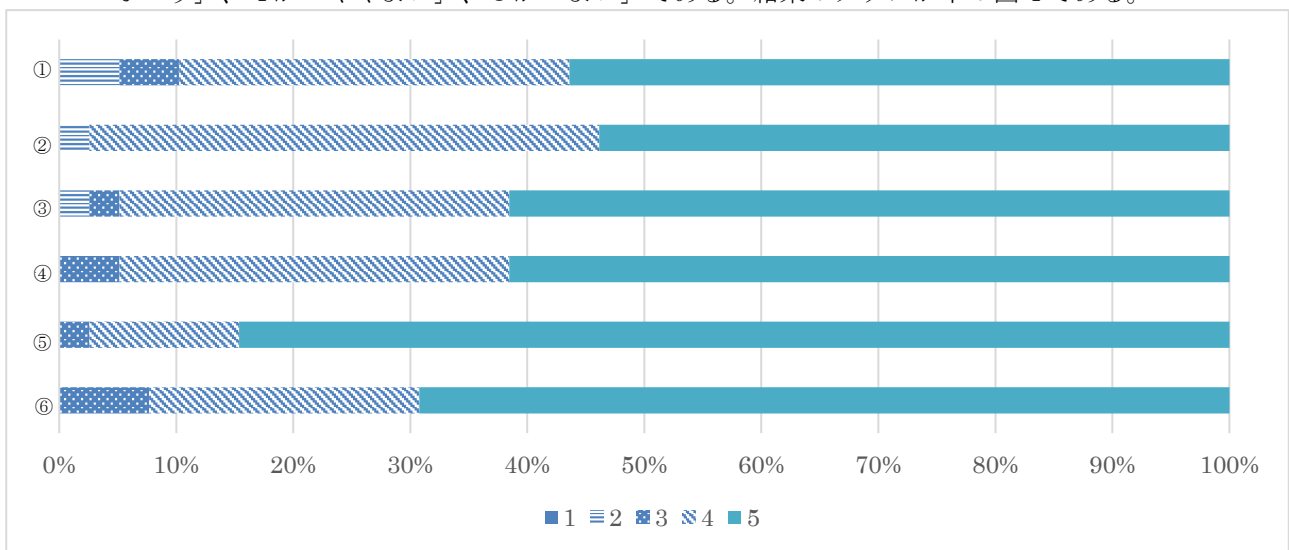


図4 アンケート結果

(3) 背景に書いた通り、今回の仮説は、「自己の活動が承認されれば、その結果自己肯定感を高めることができるのではないか」ということである。今回の授業で置き換えて考えてみると、自身がしっかりと勉強した内容を、他の人に積極的に聴いてもらえると、自己肯定感が高まるのではないかと

想定している。①②は学習内容に対する理解を、③④は自身の活動に価値を見いだしているか。⑤は自身の考えを聴いてもらったという感覚を持てたか。⑥は他の人の考えを聴き、受け入れたかを問うている。⑤の数値が高くなることを最も期待していた。結果を見ると、全体的にはどの項目も5「よい」が最も多く、学習内容についても、ジグソー法についても、肯定的な意見が多いことが分かる。また、5「よい」に4「ややよい」を含めれば、どの項目についても全体の約9割の生徒が肯定的に授業を捉えていることが分かる。

次に、③④と⑤の関係を考えると、③④のようにしっかりと学習した内容を話し、それを班員に「聴いてもらった」と捉えている生徒が多いということが分かる。こうした生徒は、自分の話を受け入れてもらったと感じているので、自己肯定感の高まりにつながる経験ができた生徒だと思われる。

また、どの項目も5「よい」にしている生徒の⑦のコメントのなかには、

生徒A：なるべく複数の視点から考えるようにしたが、共有したときに見落としていた視点がたくさんあることに気づき、面白かった。

生徒B：自分ではすぐに至らなかった考えをグループの人が説明していて、自分の意見の参考にしようと思いました。

生徒C：自分では思いつかない考えを班の人がもっていて面白いと思った。

とあり、班員の意見を積極的に受け入れて自己の考えを形成していることが分かる。こうした生徒も自己肯定感が高いということが分かる。

一方で、授業の内容や活動に対して芳しくない感想を持っている生徒もいた。①～③については、1割には届かないが、一定数の生徒が2「ややわるい」をつけていた。①と②は学習内容に対するものであり、③は「クイズ」に関連し、内容についての感想につながるころでもあるため、「ゲノム編集」という内容を難しく考えた生徒であった可能性がある。こうした生徒は、内容をしっかり話せなかった可能性があり自己肯定感の高まりにつながる経験があまり期待できない。

ここまでの結果から、研究授業を行ったクラスの生徒たちは、自己肯定感の高まりにつながる経験ができたともいえるが、一方で、元々自己肯定感が高い生徒が多かったのかもしれないとも考えられる。

今回は全体的に「よい」「ややよい」を選択した生徒が多かったが、期間や回数を変えて同じ授業をしたときにどのような結果が出るのかをさらに追及したい。長期間に渡り、ジグソー法を定期的に行い、アンケートを複数回実施して変化を追うことで、「自己肯定感」に対して異なる結果が出ることも考えられる。また、一つの科目だけではなく、他の教科・科目でも同様の活動を取り入れ、アンケートを実施することでも、異なる結果が出ることも考えられる。

以上のように、令和5年度はジグソー法を取り入れた授業を行い、自己肯定感に関連するアンケートを事後に行った結果、学習内容や活動に肯定的な意見を持つ生徒が多かったことが分かった。授業内の活動によって生徒の自己肯定感の高まりを見ることについては、研究授業とその後の検討によって、一度の授業で高まりが見られる場合もあれば、長期間実施したり他の教科・科目でも同様の活動を実施したりすることで高まりが見られる可能性があるという視点を得た。本年度の実践をもとに、課題となったことについてはさらに研究を進めたい。

## キ 引用文献

- ・ こども家庭庁 2023 「子供・若者インデックスボード」  
[https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic\\_page/field\\_ref\\_resources/72e91230-ee19-49d2-b94b-15790ab6d57d/1f2346a4/20231117\\_councils\\_shingikai\\_kihon\\_seisaku\\_bZi2mq96\\_29.pdf](https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/72e91230-ee19-49d2-b94b-15790ab6d57d/1f2346a4/20231117_councils_shingikai_kihon_seisaku_bZi2mq96_29.pdf) (2024年2月1日取得)
- ・ 宮下一博 「マズロー」項目 1999 中島義明監修『心理学辞典』 有斐閣
- ・ 国立教育政策研究所 2015 生徒指導・進路指導研究センター「生徒指導リーフ 『自尊感情』？ それとも、『自己有用感』？ Leaf. 18」
- ・ 文部科学省 2017 『小学校学習指導要領(平成29告示)解説特別の教科 道徳編』 p. 23  
[https://www.mext.go.jp/content/220221-mxt\\_kyoiku02-100002180\\_002.pdf](https://www.mext.go.jp/content/220221-mxt_kyoiku02-100002180_002.pdf) (令和6年1月29日取得)
- ・ 文部科学省 2017 『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説特別の教科 道徳編』 p. 20  
[https://www.mext.go.jp/content/220221-mxt\\_kyoiku02-100002180\\_004.pdf](https://www.mext.go.jp/content/220221-mxt_kyoiku02-100002180_004.pdf) (令和6年2月16日取得)
- ・ 文部科学省 2018 『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説総則編』 p. 29  
[https://www.mext.go.jp/content/20211102-mxt\\_kyoiku02-100002620\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20211102-mxt_kyoiku02-100002620_1.pdf) (令和6年3月14日取得)
- ・ 本明寛監修『評価・診断 心理学辞典』 1989 (実務教育出版)p142
- ・ 教育家庭新聞 2015 「アクティブ・ラーニングは『知識構成型ジグソー法』で」(2015年5月4日)  
[https://www.kknews.co.jp/maruti/news/2015/0504\\_10a.html](https://www.kknews.co.jp/maruti/news/2015/0504_10a.html) (令和6年2月16日取得)